

(準備研究)

伝統産業の観光資源化における地域間比較調査

古 平 浩* 井 上 典 子**

Hiroshi KODAIRA Noriko INOUE

①研究目的

本研究では、学際的領域から伝統的産業景観に対して観光資源化に関する地域間比較分析を行ってきた。伝統的産業景観とそこに関わる知的情報集積、人的ネットワークの地域間比較調査からは、地域ブランド形成へと関係し、その実践知としての連関を体系化することを目的とした。

地域社会が持つ特定の技術、知的集積と環境とが作り出す特定の産業景観（農業景観を含む）への関心が、昨今、高まっている。産業景観に関する研究はこれまで、土地政策や都市計画の不備等によって生じた側面を捉える形で展開されてきた。これらは、ペットボトルでのどの渴きを潤す我々の現在の生活が茶の質的な価値を排除し、生産技術へのこだわりを無用なものとした。それが、文化情報の喪失と景観の喪失を招いた可能性も否定できない。ある地域が、過去から継承される何らかの文化情報を創造的に活用し、現在の暮らしの中に生かすことができるのであれば、カルチュラルランドスケープも保全され、再生産されると考えられる。

本研究では、京都市等の産業景観の事例検証から、これらの伝統的産業景観が生み出す付加価値と観光資源化について調査を行った。

②研究方法

本研究は地域社会学を主軸としつつ、学際的領域から伝統的産業景観に見られる伝統的な知的情報集積と人的ネットワークに関する分析を行い、これらが現在の地域ブランド形成にどのような影響を与えているかについて、観光資源化の観点から把握することを研究目的とした。なお研究においては社会学

的調査手法に基づき、産業景観に関わる社会資本の現状について把握するのみならず、産業景観の新たな知見を加味して研究を実施した。

つまりここでは、カルチュラルランドスケープを意識した土地利用分析を援用し、学際的な研究基盤を形成することとなり、挑戦的な研究としての特徴を有している。

③研究成果

本研究は、カルチュラルランドスケープと地域経済、地域社会との関係性における一連の先行研究から着想を得たものである。研究代表者と研究分担者は、これまで北陸地方の伝統産業の集積地（山中漆器等）や金沢市の町並み等に関する調査を実施してきた。これらの研究成果の一部は書籍や研究論文として刊行している。本研究は、これまでの個別調査を包括する位置づけにある。

本研究に関連する国外の研究については、パットナム(1994)¹⁾、ピオリ、セーブル(1993)²⁾をはじめ、産業集積と公共政策やネットワークガバナンス、地域社会と社会的企業等に関する各種の調査研究がある。特に、産業集積の形成・背景にあるヒトと組織を分析した田中夏子(2004)³⁾、北陸地域における地域産業とその集積および発展に関する国内の先行研究として、中村剛次郎(2004)⁴⁾、佐無田光(2008)⁵⁾による一連の研究がある。また、こうした観点に観光政策を加えた先行研究としては、内発的發展に関する宮本憲一(1998)⁶⁾等の研究がある。

具体的に地域の実情を支える制度的背景としては、経済産業省における伝統産業に関する施策があるが、

*環境ツーリズム学部准教授 **追手門学院大学教授

現状においては、生活様式の大きな変化、海外からの安価な輸入品の増大によって需要が低迷し、その存続が危ぶまれている。

しかし日本の伝統文化の担い手である伝統的工芸品産業が衰退する一方で、クール・ジャパンと称される海外からの日本の文化に対する高い評価も存在している。クール・ジャパンは日本文化のグローバル化の実体を示し、インバウンド観光の促進が叫ばれる今日にあって、その展開の可能性を内包した鍵概念として注目されている。

地域に対する社会学的アプローチあるいは地域経済的アプローチは分離的に発展してきているが、田中(2004)の指摘にもあるように、北イタリアにおいては1980年代以降、二つのアプローチは地域産業システムに関する研究の中で統合され、地域政策の中で重要な役割を果たしてきている。これに対して、日本では長く分化された状態が続き、これらを統合した研究はほとんど認めることができない。京都や金沢において、伝統産業と地域社会との連携により観光地の発展が認められるにもかかわらず、これらは総合的に捉えられることはほとんどなかったと考えられる。



(写真) 京都市西陣の産業景観

以上から、本研究は、包括的な伝統産業の観光資源化に関する調査研究において萌芽的位置づけとなるものであり、今後の展開を視野に含め、総合的な観光政策・地域政策に発展する基盤を構成するものと考えている。

注

- 1) Roberto D.Putnam, Making Democracy Work: Civic Tradition in Modern Italy, Princeton University Press, 1994
- 2) マイケルJ. ピオリ他『第二の産業分水嶺』筑摩書房 1993
- 3) 田中夏子『イタリア社会的経済の地域展開』日本衛材評論社 2004.
- 4) 中村剛治郎『地域政治経済学』有斐閣 2004.
- 5) 佐無田光『文化のまちづくりと地域経済 金沢を事例として』環境と高麗38(1), 37-43, 2006.
- 6) 宮本憲一『内発的発展と地域経営』農山漁村文化協会 1998.

研究発表 (令和元年度の研究成果)

[学会発表] 計 (1) 件

発表者名	発表標題		
古平 浩	伝統産業の観光資源化における地域間比較調査から		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本地域政策学会	令和3年1月9日	関東部会(Web開催)	